



肇さん けいこちゃん 私

津軽での目的の一つは幼馴染の肇さんをお見舞いすることでした。肇さんは幼稚園、小学校と7年以上同級生です。卒園式の写真は私の幼少期の数少ない写真の一枚です。並んだ三人は75年の時を経て、今だにお付き合いが続いています。不思議としか言いようがありません。

肇さんは頼まれたら嫌とは言わずまとも上げる、温和で頼りがいのある人物です。イジメを避けて五所川原を離れ、一人弘前の学校へ行った私のために、30年以上経ってクラス会を開いてくれました。それ以来、幼馴染に戻りました。毎年一番早くに林檎を送ってくれます。その大事な肇さんが病を得て、現在施設に入居しています。今、コロナ禍は収まったとはいえ、病院や老人介護施設では職員への感染を考慮し、面会できなかつたり、または遮蔽ガラス越し面会という状態だと肇さんの奥様から伺っていました。それでも仕方がないと思い、土岐氏にガイドの足を五所川原まで伸ばしてもらいました。

なんと、本当に、施設の窓越し面会でした。声が全く聞こえないからと言って、窓を少し開けてもらいました。車椅子の肇さんはニッコリと笑って出迎えてくれました。ピンクのベストがよく似合うねと言うと、久しぶりに会うのだからと、奥様が持ってきたとのこと。体調はまあまあ、食欲はある、リハビリはしている、と全て前向きに話してくれました。10分ほどの面会時間に私は何を話したのか、よく覚えていません。胸に迫る面会となりました。

一方、友人は津軽行が決まった時に、「この年だから、これが最後になるかもしれない、会えるうちに会いたい！」とクラスメートに連絡を入れていました。大事になったら申し訳ないと思いましたが、嘉寿子さんが幹事を引き受けて、E組のクラス会の段取りを付けてくれました。



演劇、文芸で群を抜いていたカツさん、英語スピーチで優勝しまくったバラさんなど、スターが集まり、卒業以来初めての再会となったという人もいました。其々が卒業以来の思いの丈を吐露しました。周囲のアドバイスを素直に従っただけなのに、幸せだったという玲子さん、もっと夫に愛してると言っておけばよかったというセツさん。アッという間に時間が過ぎました。

体調不良で会に参加できなかった智ちゃんをご自宅に招いてくれました。控えめな彼女も存分に話してくれました。夏ちゃんが得意のタイ料理を持って来て、共に夕食になりました。彼女にはキリシタン関連のために教会の友人を紹介して頂き、感謝です。



幹事をしてくださった嘉寿子さんは送迎の運転も引き受け、細やかに配慮してくれました。ホテルに高校は県立に移った藤本さんが訪ねてくださり、昔と変わらず、精力的に活動している姿を見てパワーをもらいました。

会えて本当に良かったです。皆さん、体力は衰えたとはいえ、話す力は冴え渡り、磨きが掛かっておられます。負けました。但し、集まったお友達は全員、今は独身となっております。